経 営 協 議 会 議 事 要 旨

１．日　時　　平成３０年６月１９日（火）13:30～15:05
２．場　所　　創立５０周年記念会館２階　岩木ホール
３．出席者　　佐藤（学長・議長）
今井，岡井，小田切，河田，櫛引，熊地，島，永澤，三國谷，
渡邊，伊藤，郡，石川，福田，日景の各委員１６名
欠席者　　青山，吉澤の各委員２名
陪席者　　山内監事，澁谷監事，柏倉副学長，若林副学長，小山副理事，
杉原国際連携本部長，稲村法人内部監査室長
事務部陪席　三浦総務部長，木村財務部長，金澤学務部長，沼本施設環境部長，
齋藤研究推進部長（兼）社会連携部長，川村医学部附属病院事務部長，
石戸谷企画調整役，小田桐調整役，佐藤総務広報課長，浅利企画課長，
庄司人事課長，村市財務企画課長，齋藤財務管理課長，渡辺契約課長，
宍戸施設企画課長，太田経営企画課長

４．配付資料
資料１　【事前配付】経営協議会委員名簿（平成３０年５月１５日現在）
資料２-1【当日配付】平成29事業年度に係る業務の実績に関する報告書について（概要）
資料２-2【当日配付】平成29事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）
資料３-1【事前配付】国立大学法人弘前大学職員給与規程の一部改正について
資料３-2【事前配付】国立大学法人弘前大学職員給与規程新旧対照表(案)
資料４-1【当日配付】平成２９事業年度決算の概要
資料４-2【当日配付】平成２９事業年度財務諸表（案）等
資料４-3【当日配付】平成２９年度医学部附属病院収支実績等
資料５　【当日配付】「監査報告書」「平成２９年度監査報告書」
資料６　【事前配付】平成３１年度概算要求について（施設整備費）
資料７　【事前配付】平成３０年度医学部附属病院経営目標

・　議事に先立ち議長から，資料１に基づき，三國谷委員，今井委員及び小田切委員の紹介があった。

５．議事
・　議長から，３月２０日開催の議事要旨（案）の確認が行われ，原案のとおり承認された。

○審議事項
審議１　平成29事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について
浅利企画課長から，資料２－１及び２－２に基づき，平成29事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について説明があり，審議の結果，原案のとおり了承された。
なお，字句等の修正については，学長に一任することで了承された。

審議２　国立大学法人弘前大学職員給与規程の一部改正について

渡邊総務担当理事から，資料３－１及び３－２に基づき，国立大学法人弘前大学職員給与規程の一部改正について説明があり，審議の結果，原案のとおり了承された。

審議３　平成２９事業年度決算について

渡邊総務担当理事から，資料４－１及び４－２に基づき，平成２９事業年度決算について説明があり，引き続き，川村事務部長から，資料４－３に基づき，平成２９年度医学部附属病院収支実績等について説明があり，審議の結果，原案のとおり了承された。

○報告事項

報告１　平成２９年度監事監査報告について

山内監事から，資料５に基づき，平成２９年度監事監査の結果について報告があった。

報告２　平成３１年度概算要求（施設整備費）について

渡邊総務担当理事から，資料６に基づき，平成３１年度概算要求（施設整備費）について報告があった。

報告３　平成３０年度医学部附属病院の経営目標について

川村事務部長から，資料７に基づき，平成３０年度医学部附属病院の経営目標について報告があった。

○質疑応答（□：学外委員　○：学内委員）

１　平成２９年度決算について

□　利益剰余金が増額し，資本剰余金が減額したのはなぜか。

○　利益剰余金の増額は，目的積立金の増額分である。

資本剰余金の減額は，国立大学法人会計基準において，固定資産の減価償却を損益外処理とするものがあり，減額は全て固定資産の減価償却分である。

□　病院看護師の退職給付引当金の計上方法変更とはどういうことか。

○　退職給付引当金について，対象者が300名未満の場合は簡易な計算方法（簡便法）によることが認められているが，対象者が300名以上の場合は，原則法によって計算することとなっており，対象者が300名以上となったため計算方法を変更した。

□　手術件数が増加したのはなぜか。

○　手術室の効率的利用によるものである。

□　外来患者数が増加したのは，経営努力によるものか。

○　外来患者数の増加は，地域医療全体の現状に左右されるものである。急性期医療を担う本学は，地域の医療機関と機能分化を図り，外来患者数はもう少し抑えるべきではないかと考える。

２　平成３０年度医学部附属病院の経営目標について

□　平成30年度患者数（見込）は，どのような方法で算出しているのか。

○　昨年度実績を基に増減要因を加味した1日平均推計患者数に平成30年度の診療日数を乗じて算出している。

□　直接診療経費は，同規模の医療機関と比較するとどのような状況なのか。

○　他県の医療機関と比較すると直接診療経費は高額である。このうち医療材料費については，青森県に代理店が少ないため，値引率が低いことが大きな理由である。これについては，コンサルタントを活用し，メーカーと価格交渉をする等，対策を始めたところである。

□　病床稼働率は，過去最大ではどのくらいか。

○　国立大学法人化直後は，90％近いこともあった。現在は，平均在院日数の短縮に力を入れていることから，稼働率が下がっている。85％程度まで上げていきたいと考えているが，看護職員が不足していることから，急激に稼働率を上げるとスタッフの疲弊につながるため，難しいところである。

□　外来の診療単価が10％程度増加しているのはなぜか。

○　高額な薬剤である抗悪性腫瘍剤（オプジーボ・キイトルーダ）の対象疾患拡大等によるものである。

３　平成２９年度監事監査報告について

□　社会連携としてボランティアセンターによる活動が取り上げられているが，特定非営利活動法人マザーフィールドにボランティア学生が訪れて小中学生と交流を深め，大変好評であった。大変素晴らしい活動であると考える。

○　ボランティア活動は，学生が勉強する機会でもあると考えている。

□　リスクマネジメントについて，学長及び理事へ早期報告し，リスク所管責任者が早期に対応する体制が必要であると考える。また，リスク対応について，事後の検証も必要であると考えるが。

○　その必要性を強く認識しており，検討を進めていきたいと考えている。

以上